

日本道德教育学会誌『道德と教育』執筆要領・投稿規定

平成29年7月2日改正

本誌に掲載する論文等は、原則として次のとおりとする。

- (1) 巻頭言(依頼)
- (2) 「研究論文」(投稿)
会員が、研究活動・学会活動を主題とする研究成果をまとめた論文。
- (3) 「実践研究論文」(投稿)
会員が、実践事例研究の成果をまとめた論文。
- (4) 「研究ノート」
会員が、「研究論文」及び「実践研究論文」に準じる研究・実践の成果としてまとめた論文。また、萌芽的な研究及び道德教育理論・実践に関する紹介、報告など。
- (5) 大会報告(依頼)
研究大会における基調講演、学術講演、シンポジウム及び本学会が主催する学術的会合の講演者・提案者がその論旨をまとめたもの、並びにシンポジウム司会者がその内容について総括した報告。
- (6) 特集論文(依頼・投稿)
編集委員会で決定した特集内容に関する論文。編集委員会からの特に依頼した論文(依頼論文)と自由投稿論文。
- (7) 書評
道德教育の研究に関連する著書、文献、資料等の紹介と批評。
- (8) 各支部の活動状況など

投稿規定

1. 投稿資格

日本道德教育学会会員で、9月30日までに当該年度の会費を納入している者。
(単著、共著にかかわらず著者は本学会の会員でなければならない。)

2. 投稿論文内容

- (1) 投稿論文原稿は、道德及び教育の関連領域に関する未刊行のものに限る。他の学会誌・協会誌・紀要・商業誌等に発表されたもの及びそれらに掲載予定もしくは審査中のものは投稿できない。ただし、口頭発表の場合は、この限りではない。
- (2) 投稿にあたっては、論文の種類(「研究論文」「実践研究論文」「研究ノート」)を別紙に明記することとする。ただし、編集委員会は、査読結果に基づき、投稿者の同意を得て他の論文の種類として掲載することができる。
- (3) 同一投稿者による同じ号への単著による「研究論文」「実践研究論文」「研究ノート」複数投稿は認めない。ただし、依頼論文の場合はこの限りではない。

3. 投稿論文原稿の書式・分量・要旨等について

- (1) 使用言語は、日本語を原則とする。ただし、何らかの事情により、そのほかの言語の使用を希望する場合は、事前に相談するものとする。
- (2) 投稿論文原稿の字数は、本文，図，表，注，引用文献を含めて 16,000 字以内とする。
- (3) 本文は、40 字×40 行（A4 版 10 枚以内）で設定し、論文の種類、氏名、連絡先（所属、電話番号、メールアドレス等）、和文題目、英文題目、論文要旨（400 字以内）、英文要旨、キーワード（3～5 個程度）等を別紙に明記して論文と合わせて提出する。手書きの場合も原則としてこれに準じる。ただし、英文タイトル・英文要旨は編集委員会に依頼することができる。
- (4) 表記については、執筆者の意向を尊重するものとするが、「英文等の表記・用語」の事項を含め、編集委員会が必要と判断した事項については、執筆者と相談で修正することができる。
- (5) 編集規定に沿わないと編集委員会が判断した投稿論文原稿は、受理しない。また、投稿論文の原稿等は採否にかかわらず返却しない。

4. 投稿の際に提出するもの

投稿の際には、論文原稿 4 部(正本 1 部、コピー 3 部)と要旨 1 部を提出することとする。ただし、審査の公平を期するため、コピー 3 部（論文要旨、英文要旨を含む）には氏名、所属等を記入しない。最終原稿提出の際には、電子媒体（CD、DVD、USB、SD カード等）も併せて提出することとする。投稿の際には電子媒体の提出は必要としない。

5. 投稿論文原稿の締め切りと審査結果の通知

- (1) 投稿論文原稿は、毎年 9 月 30 日（必着）を締切日とする。なお、編集委員会において締切日を新たに変更して指定する場合は会員に通知する。
- (2) 審査の結果については、編集委員会が査読結果に基づいて総合的に判定し、投稿者に通知するものとする。

6. 校正及び抜刷

校正は原則として再校までを著者校正とし、三校以降は編集委員会で行う。校正の際の内容に関わる修正は認めない。また、抜刷は 30 部とする。30 部以上の部数を必要とする場合は予め編集委員会に申し出すこととし、超過分の費用は実費とする。

7. 著作権

本誌に掲載の論文の著作権は本学会に帰属する。ただし、著作者自身が、自己の著作物を利用する場合には、本学会の許諾を必要としない。なお、『道徳と教育』に掲載された「研究論文」「実践研究論文」「研究ノート」等については、刊行から 2 年を経過した時点で順次、J-STAGE プラットフォーム等で公開する。投稿者はその旨を了解した上で投稿するものとする。

<注および引用文献の表記法について>

原則として、註は文中の該当箇所(1)、(2)・・・、または、1、2・・・と表記し、論文原稿末尾にまとめて記載する。単行本、論文等の註記については、概ね以下の例を参考として記載する。

【単行本】

原則として、著者、書名、発行所、出版年（西暦、元号いずれか）、頁の順で記載する。なお、邦文の書名には、『 』を用いる。英文の単行本は、邦文の場合と同じであるが、書名はイタリックで記載する。

<例>

- (1) 日本道德教育学会編『道德教育入門—その授業を中心として』教育開発研究所、2008年、142-143頁。
- (2) Morphet, Edger L., et al., *Educational Organization and Administration: Concepts, Practices, and Issues*, Englewood Cliffs, N.J.:Prentice-Hall Inc., 1982, p.160.

【論文】

原則として、著者、論文名、雑誌名、巻、号、発行年、頁の順で書く。題名は「 」で示し、雑誌名、書名は、『 』を用いる。英文の場合、題名は“ ”で括り、雑誌名はイタリックで記載する。

<例>

- (1) 押谷由夫「道德教科化の目的と課題」『道德と教育』第333号、平成27年、68頁。
- (2) Tambiah, S. J. “From Varna to Caste through Mixed Unions.” In Goody, Jack (ed.), *The Character of Kinship*. Cambridge University Press, 1973. pp.191-229.

【Web サイト情報の場合】

原則として、Web サイトを直接参照する場合は、その名称と（ ）にアドレスと最終アクセス年月日を記載する。

<例>

日本道德教育学会 (<http://doutoku-gakkai.sakura.ne.jp/>. 2015.4.10)

【参考文献】

原則として、邦文、欧文を含め、註の後にまとめてアルファベット順に記載する。著者、論文名、雑誌名、巻、号、出版年の順に書く。

<例>

- ・ Holmberg, B. *Theory and Practice of Distance Education*, Routledge, 1989.
- ・ 行安茂・廣川正昭編『戦後道德教育を築いた人々と21世紀の課題』教育出版、2013年。